

定例会見(平成23年10月)

議事次第

定例会見(16:00～16:50) 代表取締役会長兼社長 橋本 圭一郎

会見内容

1. 最近の通行台数状況
2. 距離別料金について
3. 交通実態調査の実施(第27回首都高速道路交通起終点調査)
4. 首都高のVE活動について(マイルズ賞特別賞の受賞)
5. 「パーキングでアート」の実施報告と今後の予定
6. 防災体制の強化
7. 東京スマートドライバープロジェクト
8. 海外事業展開について

質疑応答

1. 最近の通行台数状況

1. 最近の状況

7月以降は前年より下回っている。

(単位: 台/日)

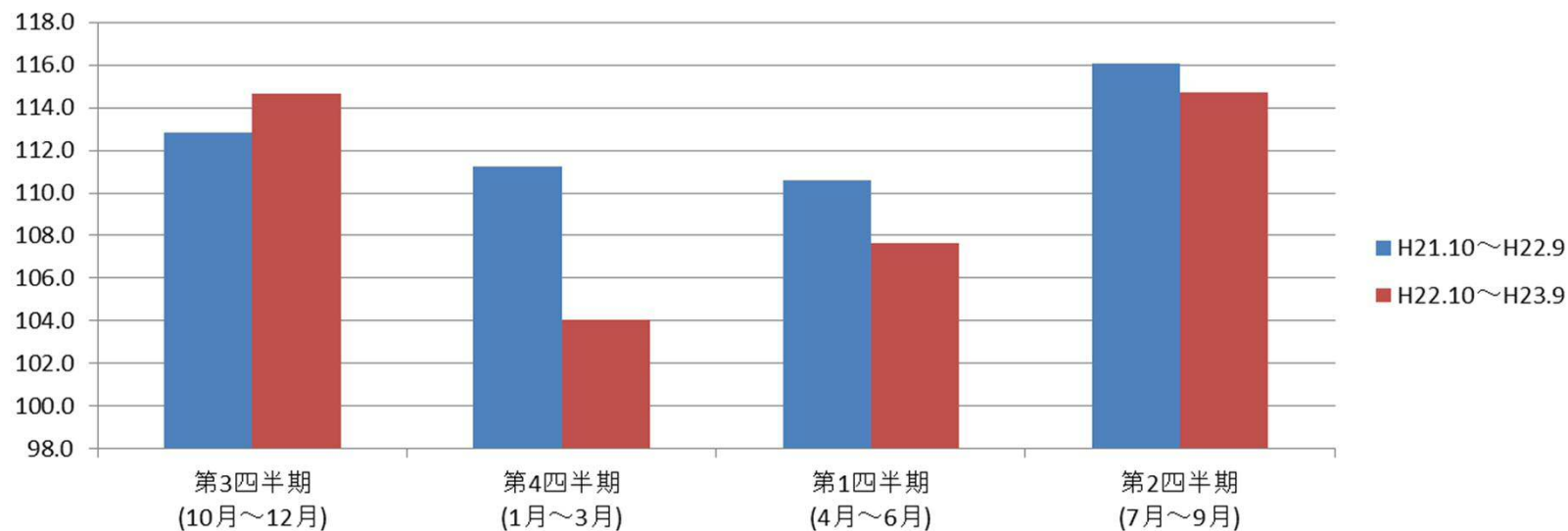
	7月	8月	9月	10月
通行台数	1,141,833	1,155,341	1,143,554	1,132,859
前年同月比	98.3%	98.8%	99.5%	99.1%

※10月は1日～21日の平均台数

2. 過去一年間の通行台数の推移

震災発生直後は大きく落ち込んだが、徐々に増加している。

(万台/日)



3. 交通実態調査の実施（第27回首都高速道路交通起終点調査）



■調査の目的

○中央環状線(3～4号間)開通後の首都高全線の交通実態や利用特性の把握



■調査概要

○調査対象:調査対象期間内に首都高速道路を利用したお客様

○調査方法:パソコン及び携帯電話によるアンケート調査

○調査内容:・首都高速道路の利用日時 ・入口、出口、利用経路
・出発地、目的地 ・回答者の属性(性別、年齢、利用目的、車種、荷物 等)

○調査時期:平成23年11月7日(月)～11日(金)

■今回の調査手法の特徴

○携帯電話やパソコンを活用したWebを使った調査手法を適用(Webにアクセスし、回答)

⇒ 首都高のお客様に今回の調査を知って頂くことが重要

⇒ 広報の充実が必要

■調査結果の活用

○情報提供内容の検討

○渋滞対策の検討 など

3. 交通実態調査の実施（第27回首都高速道路交通起終点調査）

■アンケート画面(携帯電話版)の例

設問リスト(全8項目)

1. 利用日時選択
2. 出発地選択
3. 入口選択
4. 出口選択
5. 目的地選択
6. 経路選択
7. 経路確認
8. 属性情報入力

2. 出発地選択画面

6. 経路選択画面

8. 属性情報入力画面

4. 首都高のV E活動について（マイルズ賞特別賞の受賞）

●V Eとは

「V E」とは、バリュー・エンジニアリング（Value Engineering：価値工学）の略であり、施設・サービスの機能面とコスト面に着目し、その両面から価値（Value）の向上をはかっていく管理技術である。

当社では、インハウスでのV E活動を取り入れることにより、コスト縮減のみならず、機能・安全性の向上などを通じて、お客様サービスの向上を実現するための手段として、平成14年度から活用している。

●当社での取り組み経緯

- | | |
|--------------|--------------------------------|
| 平成14年度～（導入期） | V E 関連研修の導入、社内体制の構築 |
| 平成17年度～（実践期） | 実践活動の展開、組織体制の整備、指導的人材の育成 |
| 平成20年度～（定着期） | 業務の一環としてのV E 活動の定着 |
| 平成23年度～（発展期） | 社内V E 専門家育成によるV E 活動のインハウス化の拡大 |
- ⇒ 平成22年度までのV E 活動事例は65件、平成23年度は現在9件実施中
（土木、建築、電気、機械など様々な分野の課題に適用）

4. 首都高のV E活動について（マイルズ賞特別賞の受賞）

●マイルズ賞特別賞の受賞

当社のこれまでの継続的かつ積極的なV E活動の取組みが評価され、このたびV E全国大会（平成23年10月18日）において、公益社団法人 日本バリュー・エンジニアリング協会から「マイルズ賞特別賞」が授与された。

【マイルズ賞特別賞】首都高速道路株式会社

首都高速道路はV E思考が全社規模で浸透していることに加え、道路建設・維持管理に関わるコスト削減だけでなく、機能・安全性の向上をはかるとともに、利用者サービスの向上につなげている点が高く評価されました。

公益社団法人 日本バリュー・エンジニアリング協会ホームページより抜粋



授賞式の様子



受賞報告の様子



マイルズ賞特別賞の賞牌

●マイルズ賞について

「マイルズ賞」は、V Eの創始者であるL. D. マイルズ氏を記念して、わが国の産業界にV Eを一層、普及促進させるとともに、技術水準の向上や企業経営の効率化を図るため、公益社団法人 日本バリュー・エンジニアリング協会が1982年に創設したものであり、V E活動を実践して顕著な成果をあげたと認められた組織（企業または事業部門、自治体などの公共団体）に授与されるものである。

今回受賞した「マイルズ賞特別賞」は、2004年に新設されたものであり、V E制度の運用によって公共工事のコスト縮減や価値の高い社会資本の整備に努めていると認められた場合、その自治体などの公共団体又はその部門に対して授与される。

●V E活動の主な成果（V E全国大会にて発表した事例）

- ①大橋ジャンクション屋上公園基本設計におけるV E適用事例（平成22年度発表）
- ②既設鋼床板における鋼繊維補強コンクリート舗装施工法の改善事例
（平成22年度発表）
- ③レインボーブリッジの長寿命化対策におけるV E適用事例（平成23年度発表）
- ④逆転発想機能分析による高速道路交通管制システムのリスク対応プロセス
の検証（平成23年度発表）

5. “パーキングでアート” 実施報告と今後の予定

実施報告

○実施概要

パーキングエリアの快適性向上と若手の芸術活動支援を目的としたプロジェクト「パーキングでアート」の第1弾「PARKING～PARKINGからPARKへ～」が、9月12日より12月12日まで代々木PAにて開催中。学校法人多摩美術大学との産学共同研究により、6グループ7作品を壁面等に展示している。

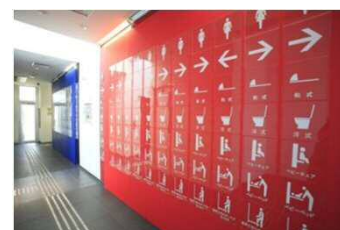
○作品介绍



〔窓ガラス面利用〕



〔よぎの森をイメージ〕



〔連続したサインアート〕



〔トイレ壁面利用〕



〔エアバックを再利用した椅子カバー〕



〔自動販売機利用〕



〔伸縮性の袋により中身によって変形するゴミ入れ〕

○オープニングイベント(9月12日実施)

関係者や各マスコミをご招待しテープカット等のオープニングイベントを開催。盛大かつ好評で、学生からも「良い経験が出来た」との声が聞かれた。

○お客様からの声

「首都高の企業イメージが良くなった」、「良い企画だと思う」など、好評価を得ている。



〔学生や担当教授、弊社社長によるテープカット〕

5. “パーキングでアート” 実施報告と今後の予定

今後の予定

“パーキングでアート” 第2弾

○期 間：平成24年1月から約3ヶ月間を予定(詳細は別途プレス予定)

○場 所：与野利便増進施設内(与野JCT予定地内 さいたま市中央区本町西5-111)
約20,000㎡の敷地内に、道路利用者のための各種施設がある。

- ①駐車場(普通車・大型車・障がい者用・200V充電器完備)
- ②休憩施設&トイレ(24時間警備員常住・高速道路情報提供)
- ③購買施設(コンビニ他)
- ④イベントスペース(モデルハウス24棟)



【案内図】

○内 容：モデルハウス内や屋外共用部等に、絵画・ガラス作品などの展示を予定。
首都高㈱と多摩美術大学の産学共同研究により、企画・展示を検討中。



【中央広場からの眺め】



【現地視察の様子】



【ハウスメーカー担当者より説明を受ける学生】

6. 防災体制の強化

防災体制の強化について～『地震時BCP（第2版）の策定』～

当社では、大地震発生時に被害を受けても災害対策業務を実施し、緊急交通路としての機能を確保するために、2009年10月に「大地震の発生を想定した業務継続計画（BCP）第1版」を策定しているが、東日本大震災によって明らかとなった課題及びその対応策を踏まえ、現行のBCPを見直し、BCP（第2版）を10月末に策定する。

◆主な改定内容

（1）本部体制の強化

業務時間外に大地震が発災した場合、本部長（社長）代行である防災担当役員又は保全・交通部長が、直ちに本社に駆けつける体制を構築し、本社近くに常駐することを原則とした。

（2）参集体制の強化

現行BCPでは震度6弱以上を想定していたが、業務時間外に震度5強発災の場合の対応についても円滑に行うため、初期参集要員は震度5強から参集を行うとともに、すべての管理職、技術系社員を参集要員に指定するなど、参集体制を強化。

6. 防災体制の強化

(3) 料金所滞留車両の排出

- ・ 地震後の交通特別パトロールに、入口閉鎖及び滞留車両の排出に要する時間を組み込み、概ね3時間以内で実施。
- ・ 料金所ごとに具体的な排出方法（PA管理用通路、直近出口等）を整理。

(4) 点検の迅速化

- ・ 点検優先路線を定め、高架下点検を概ね3時間で実施。
- ・ 他の路線の高架下点検についても引き続き実施し、速やかに点検を完了させる。

(5) 津波への対応

気象庁・自治体等の津波情報を収集し、それをもとに津波影響箇所の把握を行い、対応を決定。

6. 防災体制の強化

◆防災訓練の実施状況

当社においては、毎年防災の日9月1日に防災訓練を実施しているが、3月11日に発生した東日本大震災を踏まえて、今年度は以下のとおり防災訓練を実施した。

- | | |
|------------------------|--|
| ・ H 2 3 . 4 . 2 (土) | 閉庁日における初期参集訓練
参加者数 約 1 2 0 名 |
| ・ H 2 3 . 9 . 1 (木) | 初期参集訓練
参加者数 約 1 3 0 名 |
| | 安否確認訓練
参加者数 約 1 , 0 0 0 名 |
| ・ H 2 3 . 1 0 . 4 (火) | 防災訓練
参加者数 約 8 0 0 名 |

7. 東京スマートドライバープロジェクト



思いやりを増やす。事故を減らす。

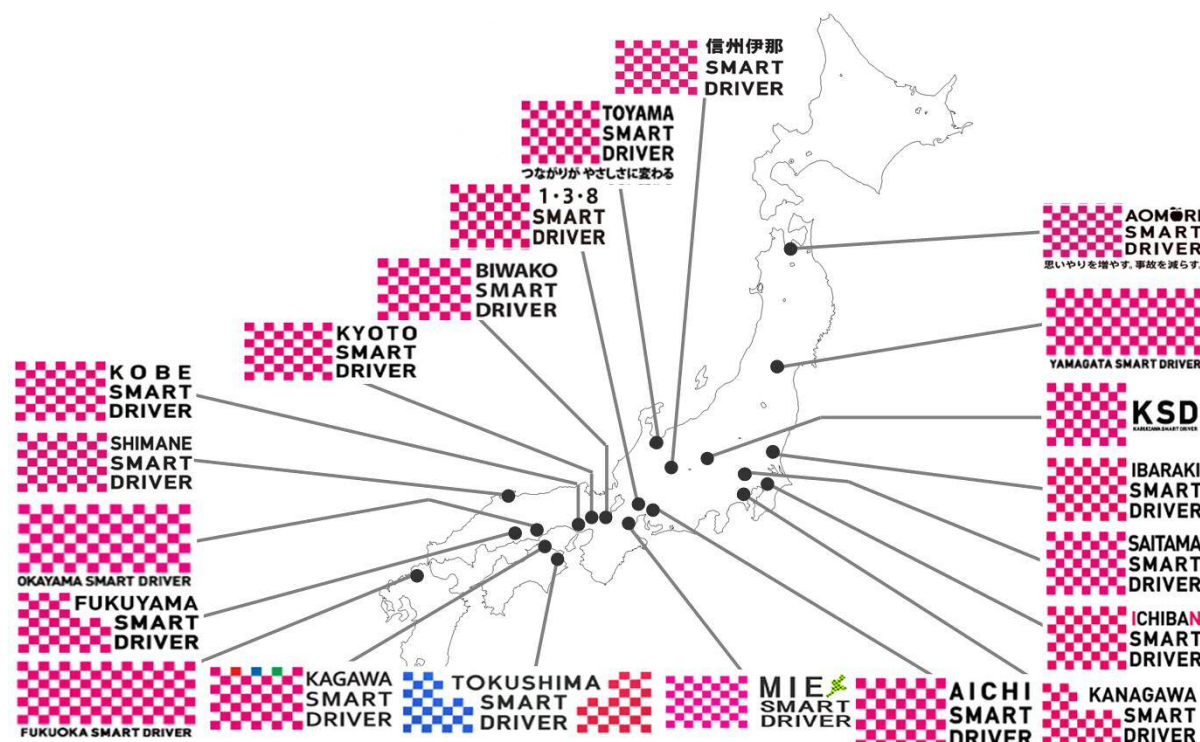
◆プロジェクトの概要

○コミュニケーションの力で首都高の事故を減らす市民主体型交通安全プロジェクト。

○小山薫堂氏を発起人として平成19年8月に活動を開始。

○平成23年10月現在の賛同企業数は116社、賛同者数は約54,500人。

○北は青森、南は福岡まで、全国21の地域でご当地スマートドライバーが誕生。



全国21箇所のご当地スマートドライバー

7. 東京スマートドライバープロジェクト



思いやりを増やす。事故を減らす。

◆スマートドライバー全国大会

全国の賛同市民、賛同企業を一同に集めたスマートドライバー全国大会「グッドストリーム・サミット」を実施。

日時：平成23年10月28日(金)14時30分～17時30分 【受付14時00分～】

場所：ガーデンシティ品川 1F 「ボールルームウエスト」

(1)開会挨拶(橋本圭一郎 代表取締役会長兼社長)

(2)基調講演(赤羽弘和 千葉工業大学教授)

「進化する交通安全」

(3)ディスカッション

「テーマ：これからの交通安全」

小山薫堂(東京スマートドライバー発起人)

ご当地スマドラ、賛同企業メンバー等

(4)事故削減アイデアワークショップ

グループ制によるアイデア討論



会場案内図

8. 海外事業展開について

(1) 海外事業新会社の設立について

『日本高速道路インターナショナル株式会社』を設立（平成23年9月1日）
～海外事業をオールジャパンの共同体制で推進～

首都高速道路、NEXCO東日本、NEXCO中日本、NEXCO西日本及び阪神高速道路は、海外事業を幅広くオールジャパンの共同体制で推進するため、このたび共同出資による日本高速道路インターナショナル株式会社（略称：JEXWAY、東京都千代田区、代表取締役社長：黒田孝次）を9月1日に設立。

JEXWAYは、5社の持つ経営資源（高速道路の調査・計画・設計・建設・管理・運営等の技術、ノウハウ）及び日本が有する包括的技術力を最大限活用して、高速道路事業に関するトータルソリューションを提供するとともに、各国・地域と共同して高速道路事業を展開し、日本を含めた国際社会、経済の持続的発展成長に寄与していく。

【日本高速道路インターナショナル株式会社概要】

1. 商号 和名：日本高速道路インターナショナル株式会社
英名：Japan Expressway International Company Limited
略称：JEXWAY（ジェックスウェイ）
2. 所在地 東京都千代田区霞が関3-8-1 虎の門三井ビルディング 3F 03（6757）7880（代表）
3. 設立（登記申請日） 2011年9月1日
4. 代表者 代表取締役社長 黒田孝次
5. 資本金等 資本金 4億9,900万円、資本準備金 4億9,900万円
6. 従業員数 16名（2011年9月1日現在）



(2) 首都高の海外事業展開状況について

コンサルティング業務受注状況一覧

状況	派遣国	プロジェクト名／工期／受注形態	当社担当内容
完了 1	タイ	JICA 橋梁維持管理計画策定調査(チャオプラヤ川架橋) ／H22.2.25～H23.3.31／長大・首都高JV	橋梁点検/維持管理
完了 2	タイ	国交省 タイ・バンコクにおける湾岸地区高速道路等の整備計画策定調査業務 ／H23.2.1～H23.3.25／長大の再委託	道路建設/環境配慮
完了 3	タイ	JICA 地方における橋梁基本計画作成プロジェクト詳細計画策定調査 ／H23.2.14～H23.3.31／単独受注	橋梁設計/維持管理
継続 1	フィリピン	JICA メガマニラ圏高速道路建設事業準備調査 ／H23.3.2～H24.2.15／建設技研・三菱総研・オリコン・首都高JV	高速道路ETC/ITS
継続 2	ベトナム	JICA インフラ工事品質確保能力向上プロジェクト ／H22.5.17～H24.3.31／片平・Nexco中日本JVの片平の補強	技術資格制度
継続 3	インドネシア	JICA ジャカルタ首都圏投資促進特別地域(MPA)マスタープラン調査 ／H23.5.25～H24.6.15／日本工営・三菱商事・千代田化工・日揮・大成・メトロ・日立・首都高・日本郵船・オリコン・三菱総研JV	高速道路計画部門
継続 4	インド	JICA ハイデラバード都市圏におけるITS導入実施支援調査(SAPI) ／H23.7.21～H25.3.21／日本工営・Nexco東日本・首都高JV	都市内ITS設計
新規 1	ベトナム	JICA ハノイ首都圏高速道路交通管制システム整備計画準備調査 ／H23.10.26～H24.3.30／オリコン・首都高JV	高速道路ITS設計